

【研究会報告】

アジアのディアスポラ文学—日本とマレーシアの交流文学事例から

日時:2012年10月27日

場所:立教大学池袋キャンパス太刀川記念館

概要

2012年10月27日、本学会と地域研究コンソーシアムの共催で立教大学観光学部交流文化学科、大阪大学グローバルコラボレーションセンター、日本華僑華人学会主催の公開シンポジウム「アジアのディアスポラ文学—日本とマレーシアの交流文学事例から」が開催された。

開催場所の立教大学池袋キャンパス太刀川記念館三階多目的ホールには、海外からの講演者他、30名程度の研究者が集まり、アジアのディアスポラ文学について、他ならぬマレーシアの文学状況を契機に議論された。

台湾海峡を挟むいわゆる兩岸四地以外の中国語文学は非国語文学であり、また作家が居住地の国語文学に参加した場合も、多民族社会の中のディアスポラによる文学営為として、ポストコロニアル文学と捉えられるが、中南米、南米の例を除き研究途上にある。特に日本の華人文学(日華文学)研究は国内研究者にとって喫緊の課題だが、学術研究は個別のケースを除きほとんど行われていない。このシンポジウムでは、日本、韓国の事例を、アジアのディアスポラ文学研究としてほぼ確立したマレーシアの事例(馬華文学)と比較しながら、文学性そのものだけでなく、移民社会と地域社会の変容、アイデンティティの

葛藤、バイリンガルと文化移動、ネイティブとディアスポラなどのテーマを、午前の研究者セッションと午後の実作者セッションに分かれて議論した。

プログラム

◆第一セッション〈ディアスポラの中の華人文学〉
及川茜(神田外語大学)「言語意識から見る寓言:李永平と張貴興を例に」

舛谷鋭(立教大学)「“留学”を超えて—マレーシア女性華人作家の天路歷程」

廖赤陽(武蔵野美術大学)「日華文学と在日文学における歴史化と“私”:黒孩・柳美里・藤代泉をめぐる」

金恵俊(釜山大学)「韓国華人文学初探」

宮原暁(大阪大学)「コメント」

◆第二セッション〈「日華文学」の創作と可能性〉

田原(東北大学)「二つの言語のはざま—二言語創作と詩歌の翻訳」

藤田梨那(林叢)(国士舘大学)「在日中国人の文学創作のビジョンと問題」

張石(中文導報)「東京の傷跡—経済格差と文化の衝突に導かれる愛情悲劇」

林祁(華僑大学)「“～の間の詩人”の放逐と放題:田原論」

廖赤陽「コメント」

(舛谷鋭)